

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	16-012	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Alcohol consumption is associated with a lower incidence of acute myocardial infarction: results from a large prospective population-based study in Norway.</p> <p>アルコール消費は急性心筋梗塞の発生率低下と関連している。－ノルウェーの地域住民大規模前向きコホート研究－</p>		
執筆者		
Gémes K, Janszky I, Laugsand LE, László KD, Ahnve S, Vatten LJ, Mukamal KJ.		
掲載誌		
J Intern Med. 2016 Apr;279(4):365-75.DOI: 10.1111/joim.12428		
キーワード		PMID
急性心筋梗塞、アルコール消費、疫学、前向き研究、危険因子		26365927
要 旨		
目的：		
<p>先行研究では、軽度から中等度のアルコール摂取は急性心筋梗塞のリスクを低下させることが報告されているが、これらの先行研究は調査以前のアルコール摂取に関する情報が欠けており、誤った分類がなされている可能性がある。本研究は、過去のアルコール摂取に関する情報を含めて、アルコール摂取と急性心筋梗塞の関連について検討した。</p>		
方法：		
<p>前向きコホート研究として、地域住民 58,827 人を対象に 11.6 年の追跡を行った。ベースライン調査は、1995 年－1997 年に行い、ビール、ワイン、スピリッツの飲酒量とその頻度を調査した。また、ベースライン調査時から 10 年前のアルコール摂取頻度についても調査を行った。</p>		
結果：		
<p>追跡期間中に 2,966 名に急性心筋梗塞が認められた。軽度から中等度のアルコール摂取と急性心筋梗塞リスクとの間には負の直線的関連を認めた。心血管疾患の主要危険因子を調整した後、1 日あたり 1 ドリンク (1 ドリンクはビール換算で中ビン半分 (250ml)、日本酒換算で 0.5 合) の飲酒増加に対するハザード比は 0.72 (95%CI : 0.62－0.86) であった。ベースライン調査時以前のアルコール摂取や併存症は、今回の結果にはほぼ影響しなかった。アルコール総消費量よりもアルコール摂取頻度の方が急性心筋梗塞の低リスクとより強く関連していた。</p>		
結論：		
<p>禁酒が社会的に非難されない集団において軽度から中等度のアルコール摂取は、急性心筋梗塞のリスクと直線的な負の関連を認めた。本研究の結果は、(適度な量の) アルコールを頻繁に摂取することが虚血性心疾患に予防的であることを示唆する。これらの結果は、過去飲酒者を誤分類に由来するものではないといえる。</p>		